グリニッチ福音キリスト教会　マナ 089
Manna
2010年09月18日

【先週のメッセージより】マタイ18:21～35

赦しのなさからの自由

一万タラント赦してもらいながら、百デナリ赦せなかった人の話し

●一万タラントは換算すると六千億円。百デナリは百万円。王のしもべは何と、六千億円赦してもらいながら、同じしもべ仲間の百万円は赦せなかった。この対比を用いて、主イエスは私たちに何を言いたかったのだろうか。

●神がキリストの十字架を通して私たちに与えてくださる赦しの大きさは、実はあまりにも法外に大きいので、実は「イメージしにくい」。一方、百万円は中古車一台買える値段、給料三ヶ月分、私たちにとり分かりやすい金額であり実際に痛みを感じる額である。

●私たちが生活の中で本当に「赦せない」と感じるのは、実際に痛みや苦しみを感じる領域のことであるが、そのような状況になった時、主はこのたとえを思い出すように、願っておられる。

【具体的に赦すために】

●*自分の赦しを確信し、感謝する*

コロサイ2：13-14にあるように、私たちを罪に定める「債務証書」は主イエスの十字架に釘づけにされて、支払いが完了していることを覚えよう。

●*キリストゆえに人を赦す*

神が私たちに命じておられる「赦し」は相手の態度いかんに関わりなく、キリストが私たちの罪を赦してくださったゆえであることを覚えよう。

●*私たちが赦せないと感じる人に代わってイエスが十字架から謝罪してくださっていると考えよう*

主イエスは私だけでなく、赦せないと感じる相手のためにも十字架にかかられた。主がその人に代わって十字架の上から「彼を赦してやってほしい」と嘆願されているなら私はどうするだろうか。

●謝罪を要求する権利、仕返し／復讐の権利を放棄する

神はこれらの権利を放棄しなさいと命じておられるが、ここで大切なのは「従う」意志である。なぜなら、人間は、意志、理性、感情の順に行動するとき、正しく機能するようにできており、神への従順を選び、上記の権利を放棄することを決めるなら、赦せないという感情からも自由になる日が来るからである。■

【今週の暗唱聖句】　ルカ10：27

あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。（成長130号p175より）

イエスが「自分を愛するように隣人を愛せよ」と語られたことの要点は、こうである。人間は激しく自分を愛する者であるが、その自己愛を人にも向けるようにということである。人間は自分のためなら何でもするというエネルギーを持っている。愛には、そういう惜しみなさがある。その与え尽くす性質を、自分ではなく他人に向けるのは難しい。･･･私たちは、隣人を愛し、自分を与え尽くすイエスの十字架の愛に学ぶ者であることを忘れてはならない。私たちに求められているのは、隣人を探すことではない。隣人になることである。■

【霊的戦い(5)／見えざる世界／サタンの最大の嘘】

マナを６，７，８、そして9月半ばまでお休みしていましたが、ようやく再開させることにいたしました。５月から四回、霊的な戦い、と題してシリーズを組んでいますが、バックナンバーはウェブページ（www.jgclmi.comの MANNAボタン）からアクセスできますので、是非、お読みください。今日は第五回目です。

創世記3:4　…あなたがたは決して死にません。あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。

ヨハネ8:44　…悪魔は初めから人殺しであり、真理に立ってはいません。彼のうちには真理がないからです。…彼は偽り者であり、また偽りの父であるからです。

●サタンが昔も今も、使い続けている「嘘」は何であるかご存知だろうか。それは煎じ詰めると「自己中心こそ幸せの道である」となる。国家、民族、部族、集落、老若男女、どういう区分に分けても、サタンのこの嘘を私たち人間は本当に信じてしまっている。親が子供によく言う「あなたのためなのよ！」とか「自己実現の中に幸せがある」「自分磨き、自己啓発」等々の言葉もこの思想を具現化している。現代、私たちは I, MY, ME, MINE をどれほど多用しているだろうか。まさに天動説的世界観である。サタン自身、この誤った考え方で身を滅ぼしているので、一人でも多くの人間を共にゲヘナへとひきずり込もうとしていることを私たちは決して忘れないようにしよう。

【今週の英語】

Man isn't a sinner because he sins; he sins because he is a sinner.

人は罪を犯すから罪人なのではない。罪人だから罪を犯すのである。

God does not change us in order to love us. He loves us in order to change us. 神は私たちを愛するために私たちを変えようとなさるのではなく、私たちを変えるために私たちを愛してくださるのだ。■